

I D 問答～新たに始まった、我(ら?)が精神の放浪?!～

作：I & D

③ これも、一種の「オオカミ少年効果」と言えるかも?!「緊急事態宣言」の陥穽?!

I：またまた新型コロナの猛威がぶり返し(第四波?)、否、その変異株によって、その猛威はさらに増し、大阪等では、まさに正真正銘の大混乱(医療崩壊?)に陥っていますね(インドやネパール等では、それ以上とか?)?!とにかく、こんなはずではなかったわけですが、何とかありませんかね?!

D：もう、そんな言葉も、言いたくも、聞きたくもないほど、うんざり千万なものなのですが、本当に、何とかしなければいけないですよ!このまま全国的な医療崩壊ともなれば、本当に、我が国はどうなっていくのか?そこまではないと、今でも、多くの人は思っている(た?)わけですが、それさえも覚悟しなければいけないのかもしれないかもしれませんよね?そこで、ここで思うことは、例の「非常事態宣言」の受け止め方というか、その推移についてです!

I：今回で、確か「3回目」ということですが、その「宣言」の効果というか、その重みがないというか、そんな感じがしますよね?!しかも、残念なことに、同じ自治体・地域で、災禍(過ち?)が繰り返されている?そんな感じがしますからね?

D：そうですねえ!もちろん、そこには、いわゆる「嘘」はないのですが、結果として、多くの人々が、「またか!しかし、結局は、前回と、あまり変わり映えがしない?!今回も、まあ、何とかなのではないか?」何か、そのように受け止めているようにも思えますよね?!多少?文脈は違うのですが、これについては、例の「オオカミ少年」の話も、どこかで思い出されますよね?!

I：確か、それは、「イソップ物語」の一つですよ?「人は嘘をつき続けると、たまに本当のことを言っても信じてもらえなくなる。常日頃から正直に生活することで、必要な時に他人から信頼と助けを得ることが出来る」という教訓を示した寓話」ですよ(タイトルや話の経緯等、かなりのバリエーションがあるようですが?)?!

D：そうです!一般には、そう受け取られています。ネット情報では、「日本ではこの話を由来として、嘘を繰り返す人物を『オオカミ少年』と呼ぶことがある。また誤報を繰り返すことによって、信頼度の低下を引き起こし、人に信じてもらえなくなることを『オオカミ少年効果』という。例えば、土砂災害が予測される地域で避難勧告を出しても、実際に災害が起こらない『空振り』が発生する可能性がある。空振りを続ければ情報の信頼度が低下し、情報を受け取っても住民が避難しなくなる。」そういうことですね!

I：要するに、「緊急事態宣言」が、その「オオカミ少年効果」を招いている?そういうことですね?

D：まあ、この「コロナ禍」については、誰も「嘘」をついているわけではないので、今回のケースを「オオカミ少年効果」と呼ぶのはどうかとは思いますが、何度も同じことを繰り返すと、あまり効果が期待できないという点では、根っ子は同じなのかもしれないということですよ!

I：まあ、それはよく分りますが、別な問題?として、その「緊急事態」ということの中身が、結局「よく分らない?」ということもありませんか?言葉の割には、その緊急性(危険度)、あるいはその中身が、あまり切実なものとなっていない?

D：医療機関や実際に罹患した人達(家族等も含めて!)には、その緊急性は実感されますが(しかも、本当は、経済のこととかを加味すれば、それこそ緊急な対策が必要なわけですが!),それとは直接には関係ない(と思っている)人達には、その緊急性が伝わらない?それが、再度のパニックの元凶なのではないか?私個人的には、「人の命を脅かすと判断される場合」には、通常の個々人の自由や人権は、何らかの制限を受けることになる!それが、まさに「緊急事態」ということかと思うのですが、それが徹底されていない?だから、多くの人にとっては、「緊急事態」とはなっていない?!(つづく)